

|             |          |
|-------------|----------|
| 群<br>教<br>セ | F09 - 01 |
|             | 平17.231集 |

## 他者との協調的な関係をきずく

# 対人関係能力を育てる指導の工夫

—— 4つのほっとルームにおける実践を通して ——

特別研修員 坂口 三津子（高崎市立中居小学校）

### 《 研究の概要 》

児童の協調的な対人関係能力を育てるため、図書室・保健室・算数の少人数ルーム・相談室を「4つのほっとルーム」とした。児童にとって関係の作りやすい職員がいつでも対応できる図書室・保健室ではピア・サポート活動を、算数の少人数ルームではミニ先生の活動をし、児童の対人関係能力を直接的に高める支援をした。また、相談室ではチーム援助や子育て支援を立案・計画・実施し、保護者の意識を高めることで間接的な支援をした。

**キーワード** 【教育相談 委員会活動 ピア・サポート ミニ先生 チーム援助 子育て支援】

## I 主題設定の理由

本校の児童は明るく素直でいろいろなことに興味をもつ。昨年度の学校年度末評価によると、自己表現が好きで自分の思ったことを言える子も多いが、返事やあいさつが不十分、自己中心的で他の児童とうまくかかわれない等が問題点として挙げられた。本校の不登校及び不登校気味の児童は、対人関係がきっかけになっている。

対人関係能力は生きる力とのかかわりが大きい。自分自身の気持ちをきちんと表現でき、同年代の児童とうまくかかわれる能力を身に付けることは、大切なことである。保護者にはその大切さが基礎学力ほど十分に認知されていないことが、日々の連絡帳や電話でのやりとりから分かる。

本校の教員は一人ひとりが児童と向き合い、課題解決に日々取り組んでいる。各担任は責任をもって児童に対しているが、学級や学年の枠を超えて対人関係能力を育てるための支援は、必ずしも行われていない。

以上のような児童・保護者・教員の現状を踏まえ、児童の対人関係能力を支援する発信拠点として、図書室・保健室・算数の少人数ルーム・相談室を「4つのほっとルーム」とした。

まず、児童の対人関係能力を直接的に支援していく場として、「3つのほっとルーム」を設置した。児童にとって関係が作りやすい職員が、休み時間にいつでも対応でき、児童の心のアンテナをつかみやすい場所ということから、図書室・保健室・チャレンジルーム（算数の少人数指導を行う

教室）の3カ所を、それぞれ「読書のほっとルーム」・「健康のほっとルーム」・「学習のほっとルーム」とした。それぞれの「ほっとルーム」にかかわりのある児童が対人関係能力を磨くトレーニングを受け、実践していく。図書委員と保健委員は対人関係づくりを意識した委員会活動を行うとともに、ピア・サポート活動を取り入れ、実践する。算数の授業を受けている児童は、ミニ先生の活動をする。ピア・サポート活動やミニ先生の活動をすることで自身の対人関係能力を伸ばすとともに、他の児童にも良い影響を与えていくことができる考えた。

児童の対人関係能力を間接的に支援していく発信拠点として、相談室を「心のほっとルーム」とした。ここでは、児童の対人関係能力の育成を支援していく教員同士が連携をとるための話し合いを行う。チーム支援や子育て支援を計画・実施して保護者に働きかけ、対人関係能力を身に付けることの大切さを意識づけていく。保護者の理解を得ることで、児童の対人関係能力をより効果的に育てることができるのではないかと考えた。

## II 研究のねらい

「4つのほっとルーム」を設置し、「読書のほっとルーム」・「健康のほっとルーム」では図書委員・保健委員がそれぞれピア・サポート活動を、「学習のほっとルーム」では児童同士が教えるミニ先生の活動を、「心のほっとルーム」ではチーム支援や子育て支援セミナーを計画・立案

し実施していくことで、児童の対人関係能力が育つことを明らかにする。

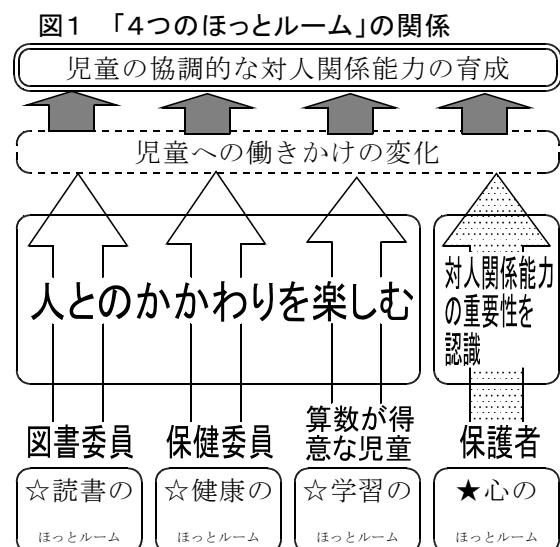
### Ⅲ 研究計画

#### 1 対人関係能力とは

ここでいう対人関係能力とは、『共通のルールの中で他者との協調的な関係をきずき、自分の気持ちを的確に伝え、他者と上手にかかわることができる能力』と定義する。

#### 2 「4つのほっとルーム」の拠点・ねらい・担当・主な実践内容と関係

「4つのほっとルーム」の拠点・担当・ねらいと主な実践内容は表1、「4つのほっとルームの関係」は図1のとおりである。



☆《児童の対人関係能力を育てる直接的支援》

★《保護者の意識改革を試みる間接的支援》

表1 「4つのほっとルーム」の拠点・担当・ねらい・主な実践内容(身に付けたい対人関係能力)

| 読書のほっとルーム（拠点：図書室）                                                            |                                                                                |                                                                   |
|------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------|
| 担当 ◎図書事務・司書教諭・図書主任・図書部担当                                                     | ねらい 図書委員の活動を通して、共通のルールの中で他者との協調的な関係をきずき、自分の気持ちを的確に伝え、他者と上手にかかわる力を育成する。         | 主な実践内容（対人関係能力）<br>読み聞かせ（きずく） 読書週間発表（伝える） ピア・サポート活動（かかわる）          |
| 健康のほっとルーム（拠点：保健室）                                                            |                                                                                |                                                                   |
| 担当 ◎養護教諭・保健主事・保健部会・学校保健会（学校医・学校歯科医・学校薬剤師・学校職員・PTA 本部役員・PTA 保健委員・PTA 保護者・評議員） | ねらい 保健委員の活動を通して、共通のルールの中で他者との協調的な関係をきずき、自分の気持ちを的確に伝え、他者と上手にかかわる力を育成する。         | 主な実践内容（対人関係能力）<br>ティースフェスティバル（きずく） 素直になる木の活動（伝える） ピア・サポート活動（かかわる） |
| 学習のほっとルーム（拠点：チャレンジルーム）                                                       |                                                                                |                                                                   |
| 担当 ◎少人数担当・教務主任・3年・4年・5年・6年担任                                                 | ねらい 算数のミニ先生の活動を通して、他者と上手にかかわり、教え教わる対人関係を楽しみながら、対人関係能力を伸ばす。                     | 主な実践内容（対人関係能力）<br>ミニ先生の活動（かかわる）                                   |
| 心のほっとルーム（拠点：相談室）                                                             |                                                                                |                                                                   |
| 担当 ◎教育相談主任・教育相談担当・心の支援員・担任・対象児童の関係職員                                         | ねらい チーム支援や子育て支援を通して、対人関係能力を育てることの大切さを保護者に認識してもらうことで、より効果的に児童の対人関係能力育成の支援をしていく。 | 主な実践内容 教育相談 子育て支援 学校保健委員会 不登校等へのチーム支援 ほっとルーム通信の発行                 |

注：各ほっとルーム担当の◎は、主担当を示す。

### Ⅳ 実践の概要及び考察

#### 1 「読書」・「健康」のほっとルームでのピア・サポート活動の実践

(1) ピア・サポートトレーニングプログラムの実施  
活動をしていくのに最低限必要と思われる、ピア・サポートトレーニングプログラムを作成し、

各ほっとルームの主担当と実施した。トレーニングプログラムの内容は、次ページ表2のとおりである。

「上手に自分の気持ちを言おう」では「えっ、断っていいんだ。」という児童のつぶやきがあった。今まで自分の気持ちを抑えて無理をして他者と接してきたようだった。自分の気持ちに嘘をつかなくても、上手に表現することで相手も自分も

表2 ピア・サポートトレーニングプログラムの内容と児童の感想

| 月日          | 内容                                                                         | 児童の感想                                                                                                      |
|-------------|----------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 7/21<br>1日目 | 「リレーションづくり・自分を知ろう」<br>ピア・サポートの説明、約束の確認、自己紹介カード                             | 「 <u>ずいぶん前にも親切にしてもらったりしてあげたりしたことがあったんだな</u> と思った。 <u>友達に優しくしたい。</u> 」                                      |
| 7/22<br>2日目 | 「気持ちの良いかかわり方をしよう」<br>探偵ゲーム、プラスとマイナスのストローク                                  | 「 <u>相手が話を聞かないといやな気持ちになる。</u> きちんと話を聞いてくれると話が進むしおもしろい。」                                                    |
| 7/26<br>3日目 | 「人の話を上手に聴こう」<br>心の壁を取り去る質問15、話を上手に聴くための7つのポイント、一方通行コミュニケーションと双方通行コミュニケーション | 「 <u>自分に正直でいることが大切だ</u> と思った。 <u>質問をして双方で意見を言うこと</u> によって安心感が生まれると思った。 <u>お互いに話し合って、はじめて話が通じるんだ</u> と思った。」 |
| 7/27<br>4日目 | 「上手に自分の気持ちを言おう」<br>アサーション度チェック、オープンクエスチョンとクローズドクエスチョン                      | 「 <u>自分の気持ちを正直に表現し、相手に嫌われない「さわやかさん」で気持ちよく返してあげたい</u> と思った。」                                                |
| 7/28<br>5日目 | 「問題解決の方法を知ろう」<br>「自己プログラムの作成」<br>問題解決5つのステップ、相談を受ける時に気を付けること               | 「 <u>自分にもっと自信をもとう</u> と思った。 <u>問題解決の方法がわかって良かった。</u> これからもピア・サポーターとして問題解決に役立っていきたい。」                       |

納得しながらつき合っていくことができることを学び、驚いていた。対人関係能力を高めるためのプログラムを意図的に実施することで、児童の意識は変化した。この児童は、保健室で低学年の児童のもめごとを解決するなど、以降のピア・サポート活動にも積極的に取り組む様子が見られ、意識の変化は人とのかかわる行動に結びついていった。ものごとの受け入れが柔軟な児童たちは、ロールプレイをしながら対人関係のノウハウを身に付けていった。ピア・サポートトレーニングプログラムの内容は、的確だったことが伺われた。

「相談」の活動をしたいと考えたピア・サポーターには、再度、問題解決の方法を確認するため、両者が納得できる解決法を考えるエクササイズ「win win」を実施した。

#### ☆「win win」の児童感想☆

「最初からピア・サポーターが決めつけるのではなく、両方が納得できる答えをサポーターが導けるようになればいいなと思う。相手の話をよく聞くことが大切。」

問題解決の方法を再度確認することで、自信をもつて活動する様子が見られた。

## (2) ピア・サポート個人プログラムの実施

### 〈ピア・サポート活動の立ち上げ〉

まず、「みんなにピア・サポートについて知ってもらってから活動を始めよう」ということで、児童集会で説明し、活動内容や自分たちで考えたピア・サポーターのマークを紹介した（図2）。



ある児童は、発表後、ピア・サポート活動を応援する反応がほかの児童から得られ、とてもうれしかったそうだ。学校ではあまり笑顔を見せない児童がそこから変わっていった。役割と「伝える」場を与えることで、今まで消極的だった「かかわる」という対人関係の一步を踏み出す自信が生まれたことが伺われた。

次に、校内にピア・サポーターの顔写真を掲示して親しんでもらい、そのあと、ピア・サポーターがそれぞれ自分で考えた個人プログラムを実施していった。写真と活動を掲示して「伝える」ことによって、活動への意欲がピア・サポーターに芽生えた。以前と比べると目に見えて態度が堂々としてきた児童が多く見られた。

〈ピア・サポーターが考えた個人プログラム〉

- 新聞・ポスター作り
- 相談活動
- 雨の日の読み聞かせ
- 1年生と遊ぼう

○図書室・保健室に来た児童への親切な対応

同じプログラムを選んだピア・サポーターは休み時間のたびに集まり、意欲的に活動する姿が見られた。仲間ができたことで活動に取りかかりやすくなり、継続することができた。

〈ピア・サポート新聞・ポスター作り〉

発表の様子や相談活動の申し込み方、活動の様子を紹介した。自分たちの実践を報告することで自己達成感が得られ、自信をもって次の活動につなげることができた。

「一人でなやまないで」「私たちがついてるよ」と、同年代の仲間が支え合うピア・サポート活動を意識付けるポスターを作っていた。話し合いながら、熱心に活動していた。

〈相談活動〉

「ピアなやみ相談ポスト」を作り、中居小のピア・サポーター写真を掲示した下にポストを設置して、毎日チェックしていた。相談がないとポスターを書いて校内に掲示していた。相談したいのに申し込めない児童がいるという情報を得ると、自分からその児童のところに外向き、自信をつけるよう話を聞くなど、意欲的に活動していた。

〈雨の日の読み聞かせ〉

外で遊べない日に校内放送を流し、第二図書室で行うことにした。それ以外にも一人で寂しそうに廊下を歩いている児童を見かけると、「一人？本を読んであげるよ。聞いていかない？」と誘い、その児童が興味をもっているテーマで本を選び、読み聞かせをしていた。聞いていた児童は、「ありがとう。楽しかった。明日もする？来ていい？」とうれしそうだった。後日、この児童たちは友達を連れて聞きに来ていた。ピア・サポーターの踏み出した対人関係の広がりへ向けた第一歩が、周囲の児童にも影響を与えていった。

〈1年生と遊ぼう〉

1回目は朝の会と給食の時間に教室に出向き、「今日のお昼休みにいっしょに遊びましょう。」と誘った。昼休みに教室に行くと、1年生児童の中に、「ぼくは参加しないよ。」「私も。」という子が数人いた。その子たちは教室の隅で活動を見ていた。ピア・サポーターはオルガンで伴奏をし

ながら椅子とりゲームを始めた。参加せずに見ていた1年生も興味を示し、参加したい様子だった。2回目以降は1年生の担任の先生に頼んで、「何をして遊びたいか」を事前にアンケートをとってから、実施していた。ドッジボールのときには、校庭にコートを書いて、苦手な児童に声をかけたりボールを回してあげたりと、みんなが楽しく遊べるように気を配り、上手にかかわりながら、進めることができた。

ピア・サポーターたちはプログラムを自分で考えることで自主的に取り組もうとする姿勢が強くなり、工夫を重ねていくことができた。また、仲間と一緒に活動することで意見を出し合ったり困った時に助け合ったりと、いろいろなかわりをもつことができた。ピア・サポーターたちは工夫しながら活動を広げていき、自分たちも楽しみながら「かかわる」力を伸ばしていくことができた。

〈図書室に来た児童に親切な対応〉

図書委員は、本の貸し出し、全学級に出向いての本の読み聞かせ、読書集会の発表、読書週間などを実践してきた。

今まではカウンターに座って本の貸し出しをするだけだったピア・サポーターの一人は、低学年の児童に声をかけるようにしていたところ、最近本についてよく聞いてくるようになり、忙しくなったと感じていた。「よく聞かれるので、どの本がどこにあるのか、見て覚えておくようになりました。」と話していた。

図書室でふざける人がいて困ると感じていたピア・サポーターの一人は、読書集会の発表で全校児童に向けて注意を促した。みんなが気持ちよく過ごすためには共通のルールが必要であることに自ら気づき、うまく伝えることができた。

☆図書委員児童の感想☆

図書室で騒がないようにお願いしたら、本当に騒ぐ人がいなくなった。びっくりした。言いにくいことだったけど、発表して良かった。これからもみんなが楽しめる図書室にしていきたい。

クラスに出向いて読み聞かせをしていたピア・サポーターの一人は、読み終わった後に、「みんな、今日の読み聞かせはどうだった。楽しかった人。」と声かけをしていた。「はあい。楽しかった。」と答えると、「よかった。じゃあ、また読み聞かせに来るね。」と自然に対話していた。

ピア・サポートのトレーニングを受け、ピア・サポート活動や人とのかかわりを大切にした図書委員会の活動によって、自分の気持ちを的確に伝える力が育った。対人関係をきずき、伝え、かかわりながら、他の児童にも良い影響を与えることができた。

〈保健室にきた児童に親切な対応〉

保健委員は、保健活動、ティースフェスティバル、素直になる木の活動などを実践してきた。休み時間に、低学年の児童がもめごとですり傷を作ってきたときに、ピア・サポーターが対応した。けがの手当をするだけではなく、心のケアが自然にできるようになっていた。

また、放課後、3年生児童と1年生児童が口論をしていた。そこに通りかかったピア・サポーターが、「どうしたの。」と声をかけた。両方の話を聞いて解決していく様子が見られた。トレーニングを受け、活動を進めていくことで、抵抗なく自然に低学年の児童の話を聞いていたのを見て、対人関係能力が身に付いていっていることが分かった。

## 2 「学習のほっとルーム」での実践

9月から休み時間に3年生「あまりのあるわり算」の単元で、ミニ先生の活動を始めた。自主的に誰でも取り組める活動にしたかったので、事前にミニ先生のトレーニングを実施する代わりに、チャレンジルームに「教わる人の身になって・・・上手な教え方マニュアル」を掲示した。

ミニ先生は、それを読んでから教えた。

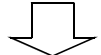
〈算数が得意な女子児童〉

A子はB男の気持ちを考えずに教えようとした。

A子「あっ、教えてあげるよ。簡単だよ。」

B男「うるさい。いいよ。今考えてるんだから。」

A子「ええー。教えてあげようと思ったのにい。」



再度「教え方マニュアル」を読む。

A子「教えていい？どこが分からないの？」

A子は「教え方マニュアル」を読むことで教わる側の気持ちを考えるようになった。押しつけがましいところがなくなり、B男もビックリした様子で素直に応じていた。A子はB男とかかわることによって、体験を通して学んだ。A子の変容は学級の他の活動でも継続していた。

〈算数が得意な男子児童〉

C男は算数ができるが、必要最低限の学習をするとそれ以上自分を高めようとする様子が見られ

ないため、関心・意欲が弱いと評価されがちであった。

C男「できた。先生、もう教室に帰っていい。」



ミニ先生の活動を取り入れると、

C男「あっ僕ミニ先生やりたい。休み時間も残って教えていい？丸付けもしてあげたい。」

C男は優しい性格だが、人とかかわるのが苦手なため、ほかの児童から誤解されることが多かった。ミニ先生の活動を取り入れることにより、問題を解けずにわからない児童がいて、声をかけるようになった。ミニ先生の活動をして、人とかかわり方を学ぶことができ、本人のやる気もまわりの児童の見方も変わっていった。

〈算数が苦手な女子児童〉

D子は算数が苦手であるが、前日休んだE子のために家で勉強してきて教えてあげていた。

D子「昨日Eちゃんが休んだから、昨日の分の算数を教えにきたよ。」

D子はE子にかかわることによって算数への関心が高まるとともに、休んだ子へのかかわり方や思いやりの気持ちを学ぶことができた。算数も人とかかわりも苦手なE子は、D子の優しさに終始笑顔で算数の学習に取り組んでいた。

〈ピア・サポーターの飛び入りミニ先生〉

ミニ先生の活動をしている教室の前をピア・サポーターのG子を通った。「先生、私も教えていいですか。」と言うのでお願いした。今まで誰にも教わりたがらなかったF男が、素直に教わっていた。F男はこのあと算数の学習に意欲的に取り組むようになり、テストではいつも90点以上とれるようになった。G子とかかわりの影響を、あらためて感じた。G子は廊下でF男とすれ違うたびに、声をかけてくれていた。

ピア・サポート活動を通じて人とかかわりを意識するようになると、どんな場面でも良い輪を広げていくことができるようになる。

## 3 「心のほっとルーム」での実践

### (1) 子育て支援セミナーの実施

ア 第1回 6月29日

「親子のコミュニケーションを考える」というテーマで、親子のかみ合わない状況を台本化し、3年生の1クラスで授業参観時に実施した。「自分の子が他の児童とどのようなかかわり方をしているのか、とてもよく分かって良かった。」という意見も多く、対人関係能力への保護者の意識を

高めることができた。

#### ☆保護者の感想☆

今まで頭の中では分かっていたても、なかなか子どもの気持ちを考えて言葉は出せず、どうしても感情的な、自分本位の言葉・態度になってしまいました。これからはもう少し、気持ちにゆとりをもって相手の言葉や態度をしっかり受け止めたい。そしてそれができると信じて、子育てにのぞみたいと思いました。

イ 第2回 11月18日

保護者の悩みアンケートの結果、一番多かった「各家庭のルール」というテーマで行った。自分で納得のいく答えを出すために、時間を過ぎても熱心に指導主事に質問する保護者が見受けられた。家庭での児童へのかかわりが変化していくことで、児童の自主性や対人関係能力に変化が現れていくという感想を得ることができた。

#### (2) チーム支援の実施

ア 不登校傾向児童へのチーム支援開始9月

イ 問題行動児童へのチーム支援開始①10月末

ウ 問題傾向児童へのチーム支援開始②10月末

学校生活に適応できるようになったアの事例を全職員に紹介したところ、「問題傾向のある児童にもチーム支援を。」という意見が職員から出されたため、イ・ウのチーム支援を開始した。学級や学年の枠を超えた職員がそれぞれの立場から、イの事例では医療機関も交えた支援を行っている。

担任以外の専門的な知識をもった教員がかかわることで、保護者は安心感を得られたようで、児童も落ち着いてきている。親を支援して親が安心感を得ることで、児童は人に優しく対応できるようになり、対人関係の広がりが見られた。

#### V まとめと今後の課題(研究のまとめ)

「ピア・サポート活動」は、トレーニングプログラムを実施した時点で、受けていない児童と意識が大きく異なっていた。ピア・サポーターは「対人関係能力の自己評価」アンケートの結果、自分の対人関係能力が高まっていると感じていた。

また、対人関係で困った経験がある児童ほど熱心に活動する様子が見られ、他の校内行事でも積極的に中心となって活動する子がいた。対人関係

能力が身に付くと、外へと活動を伸ばしていくことができるようになっていく。協調的な対人関係能力を高めるためには、小さな自己達成感の積み重ねで自信をもつと同時に、他者に対して「ありがとう」という感謝の気持ちをもつこと、全体を視野に入れた行動をとれることが大切である。小さな自己達成感の積み重ねが児童の自信となり、協調的な対人関係に結びついていく。

「学習のほっとルーム」では、ミニ先生の活動を通して算数が得意な児童も苦手な児童も楽しく学習を進める様子が見られた。ピア・サポーターやミニ先生を経験した児童の中には、他の校内行事でも積極的に中心となって活動する児童が現れた。

「心のほっとルーム」では、「子育て支援セミナー」を実施したことで、保護者の対人関係能力の認識が変化し、児童の他者へのかかわり方が変容した。第1回「子育て支援セミナー」は授業参観で実施した。その後、このクラスでは、ミニ先生の活動を活発に行うことができた。

同じく「心のほっとルーム」で実施した「チーム支援」では、学校職員がそれぞれの専門分野を生かした保護者への関わりをもつことで保護者に安心感が生まれ、児童への対応が変わり児童の変容がみられた。保護者の対人関係能力に対する認識の変化は、児童の対人関係能力を伸ばす上で有効だった。

今回の研究で、対人関係能力を育てるには、トレーニング、問題意識、実践による自己達成感の積み重ねが大切であることが分かった。また、かかわる大人が、それぞれの分野で専門的な知識をもった立場でかかわり、実践を共有することで、成果は倍増していく。発信拠点多い程、効果を発揮することも分かった。

また、児童の変容は、かかわる大人の継続的な支援によって、生涯の財産になっていく。今後も計画的に継続した支援を行い、対人関係能力を育てていく必要があることを、強く感じた。

#### 〈主な参考文献〉

・津村 俊充(南山大学教授)編集

『子どもの対人関係能力を育てる』

教育開発研究所(2002)

(担当指導主事 住谷 孝明)